

台日コドモ新聞

『台湾日日新報』附録

——戦前期台湾児童文化雑誌新聞 <2>



編・解題—横田 由紀子 (札幌大谷大学)
 推 薦—齋木 喜美子 (関西学院大学)
 造 本—B5判 並製・総約1,100頁
 揃 価—68,000円 (配本毎分売可)
 資料提供—函館市中央図書館

全四巻・別冊【復刻版】

『台日コドモ新聞』

『台湾日日新報』附録

——戦前期台湾児童文化雑誌新聞 <2>

【第一回配本】2020年10月 配本揃価 28,000円
 ISBN978-4-910363-04-2

一巻 (208頁) 『台日コドモ新聞』1～27号
 (台湾日日新報社、1925年3月3日～8月30日)※13～15号欠

二巻 (338頁) 『台日コドモ新聞』28～80号
 (同上、1925年9月6日～26年8月29日)※41～53号欠

【第二回配本】2020年4月 配本揃価 40,000円
 ISBN978-4-910363-05-9

三巻 (224頁) 『台日コドモ新聞』81～106号
 (同上、1926年9月5日～27年2月27日)

四巻 (322頁) 『台日コドモ新聞』107～145号
 (同上、1927年3月6日～11月27日)※131号欠

別冊 (約60頁) ISBN978-4-910363-06-6 (別冊のみ分売可 2,000円)
 * 解題・総目次



「台湾児童文学研究への第一歩」

河原 功

「内地より輸入された

大衆性に富む雑誌が流通するなか、
台湾で発行された貴重な雑誌」

游珮芸

『台湾子供世界』・『台湾少年界』

——戦前期台湾児童文化雑誌新聞<1>

【全6・別冊】

編・解題—横田 由紀子 (札幌大谷大学)

推 薦—河原 功 (台湾協会理事) / 游珮芸 (国立台東大学)

造 本—A5判 並製・総474頁

揃 価—40,000円

資料提供—函館市中央図書館

類 縁 書

『台湾ラジオ資料集 附、南方軍宣伝報道検閲詳報』
 【全6巻・別冊】

編・解題—井川 充雄 (立教大学)

造 本—A4/B5/A5判 並製・総1,174頁

揃 価—68,000円



1934年「函館大火」後
 内地・外地より寄贈された「罹災児童同情図書」。
 九十年弱の時を経、
 「罹災児童同情図書」より精選した雑誌新聞を
 児童文化史の共有財産として贈る。

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
 〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
 Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
 〆書店様へ……ありがとうございます
 直接小閣までお申し込みください
 図版はすべて本書より
 価格は税別 051/11/4000

日本統治下の台湾における
 児童文化・文学に関する先行研究は
 皆無に等しい状態である。

その歴史資料を発掘、
 児童文化運動の全体像をつかむ。

日本植民地時代における児童文化の
 状況を日本本土と台湾外地との
 相互関係の中から明らかにする

* 季節合本の各表紙・裏表紙を
 復刻版にてカラーで再現 *

●推薦文
日本統治期の台湾児童文化・文学研究にも貴重な成果、資料環境整備が待ち望まれている

齋木喜美子

この度、市立函館中央図書館所蔵の『台日コドモ新聞』（台湾日日新報社刊）が復刻される運びとなった。なぜ函館の図書館に日本統治期の台湾で発行された児童雑誌や新聞が所蔵されていたのか、もうだいぶ前の記憶だがはじめて聞いた時には不思議に思ったものである。実は市立函館中央図書館では1934（昭和9）年の函館大火で被災した児童のために、「罹災児童同情図書雑誌」の援助を全国に募っていた。その際各地から寄贈された12万冊あまりの書籍の中に、台湾総督府図書館から26、000冊、満鉄図書館内業務研究会から16、134冊の図書雑誌があったのだという。こうした偶然が貴重な資料保存に繋がっていたことに歴史のロマンを感じるが、何よりその資料を歴史研究の環境整備に役立てるべく尽力してきた関係者に敬意を表したい。

近年では日本統治期の台湾児童文化・文学研究にも貴重な成果が蓄積されてきているとはいえ、いまだに原資料にあたるには苦労が絶えない。たとえば『台湾日日新報』本紙は台湾中央図書館台湾分館のデータベースで検索することができるが、データベースは日本語のキーワードをすべて正確に拾えているわけではない。現地の言葉に精通している研究者がマイクロフィルムを丹念に見ていくと、こちらが入手した情報の何倍もの資料が発掘されたりして、嬉しいような悔しいような気持ちにさせられることがある。またせつかく細目を日本の文献で見つけても本文は見ることができず、途方に暮れることもある。言葉の壁、距離や時間の問題で調査が遅々として進まないことなど日常茶飯事である。だからこそこうした資料環境整備が待ち望まれている。本誌は何号か欠号はあるものの、発行から約2年間の子どもをめぐる文化状況、児童投稿作品などの詳細を知ることができ、充実した資料となっている。同時期の他のメディアや植民地政策資料、あるいは教育資料と併用して調査することで、当時の児童文化・文学のみならず教育研究にも貴重な情報源となる。資料を活用した今後の成果にも期待を寄せたい。

（さいききみこ／関西学院大学教授）

総目次（抄）

- ロンセツ／内地の子供と台湾の子供
- 台日漫画 國島水馬
- ローマ字の稽古 台北ローマ字会
- ラチオのお話 東京は三月から、台湾にも欲しい 野口松夫（交通局無線掛）
- 子供新聞発行記念のコドモデー
一六千人の児童がニコニコとして来りニコニコとして帰る
- （ツツリカたトじょうじょう）
- 私の感心した事 陳添富（台北市大瀧峯公学校6年）
- 小猫 周其源（基隆公学校2年）
- おにごっこ 中村節子（台北南門小学校3年）
- 京城の友へ 江崎光夫（台南南門小学校5年）
- 露 古賀良生（台北建成小学校5年）
- ふくる 古賀政雄（台北建成小学校3年）
- 私の家 松村久（台北旭尋常小学校3年）
- 蕃童の学芸会—あれが蕃人かと驚く程立派な出来ばえでした
盲啞学校を見る 川崎ユキ子（台南市花園尋常小学校5女）
- 太郎兵衛銀行／巖谷小波先生のお断り 其十
- 秩父宮様が今度台湾へおいでになります
- （私の学校）八百余の児童が一心に高進になるやうに勉強しています
閩島康介（高雄第一尋常高等小学校長）
- 黄金の花野 3—小石が黄金の花 久留島武彦
- 本を読み—台北図書館の児童室は大繁昌、新しい本が沢山あります
全島中等学校庭球試合
コドモ新聞 タケンチバナインボ（台中州新高部イバ木教育所4年女）
- 十二月十八、九両日全島国語演習会が高雄市で開かれる
台湾神社大祭に御参拝のため北白川宮富子殿下が御来台遊ばされます
故能久親王殿下をおまつりする神社は全島に十三社あります
チプスは野盗病です、気をつけませう自分の体を
神宮競技に参加した台湾代表選手かへる、いづれも元気でニコニコ
日々進歩する皆さんの国語—全島国語演習会の成績
ロンセツ／台湾出身の若い博士
お土産に日の丸の国旗をかって蕃人青年代表バキワヤ君かへる
天の橋立で有名な丹後国を中心に大地震起る、岩瀧町は全く焦土と化す
震災にあつた可愛さうな人々にやつて下さいと
七千人中から見事に二高へ、本島少年のために立派なお手本
美しいこの島をあらはす台湾八景、台湾を愛する人々は振つて投票なさい
—本社で今募集中
- （ミナサンへのページ）
- 今朝 呂潭源（日新公学校5年生）
- ケンカケンケンガク 飯澤輝秀（南門小学校2年）
- タカチヤン 足立初子（建成小学校2年生）
- 綴り方 行久保正一（東勢小学校4年生）
- メクラ 郭方松（新社公2年）
- お父さん 張芳雄（楊梅公学校）
- 兵隊さん 黄春生（新竹州楊梅公学校6学年）
- 新竹神社 黄栄塗（新竹第一公埔頂分校教場第4学年）
- 我が身の幸福 鄭安邦（馬公第二公学校）
- お祖父さん 吳氏綱（台中女子公2年）
- お祖父さんの思い出 劉氏碧玉（台中女子公学校第6学年）
- 殿下をお迎して 江夏秀子（台北師範学校附属小学校）
- オホムを思ひ出して 高野貴子（台南花園小学校5年生）
- 弟が欲しい 尤秋（屏東九塊公学校）
- カガミ 欧万祿（中壢公学校）
- 夕日 松本てい（苗栗小学校6年生）
- アルアサ 汪啓源（台北建成小学校2年）
- 鯉 篠原綾吉（市内南門小学校3年）
- 蛭の小父さん 齋藤亨（新竹小学校6年）
- バセウ 吉川正己（建成小学校2年）
- 倶楽部のふるかへ 川瀬龍夫（苗栗小学校4年）



『台湾日日新報』……

1898（明治31）年、日本統治期台湾において創刊され、台湾総督府の支援を受け、植民地台湾で最大の新聞としての地位を確立した。『台湾新聞』や『台南新報』とともに三大新聞と呼ばれた。復刻版としてマイクロフィルム刊行されているが、附録として発行された本書（『台日コドモ新聞』）は非収録であり、今回の復刻により、初めてその紙面が明らかになる。

〔※図版右上番号は収録巻を示す〕